省高等教育局企画課大学設置調査係の三名の実地調査委員を迎えて実地調査がおこなわれ、附属図書館、大学院生研究室、視聴覚教育センター、教官研究室（国際関係論共同研究室）を視察ののち、大学側との懇談形式による審査会が催された。大学側からは原学長、千野外国語学研究科長、中嶋地域研究研究科長、西永教授、山之内附属図書館長、上岡アジア・アフリカ言語文化研究所長、永田教授（A・A研）、若林学生部長、藤田事務局長が出席、調査委員からは、社会人受け入れの可能性、社会科学分野の図書の拡充、大学院生研究室の整備などについて強い注文が出され、これに対して原学長は、社会科学系図書の拡充を計ること、国際人養成のための大学院にしてゆきたいこと、特に留学生、社会人の受け入れに努力することの三点を表明した。

以上の経過の後、念願の博士課程が一九九二（平成四）年度からついに発足したのである。

六　地域文化研究科の歩み

博士前期課程（修士課程）に関しては、ヨーロッパ第一専攻、同第二専攻、同第三専攻、アジア第一専攻、同第二専攻、同第三専攻、日本専攻の七専攻、定員一一四人（総定員二二八人）に再編され、前期課程の各専攻には言語文化と地域研究のコースが設けられたほか、定員のうち二〇人を国際交流専修コースに割り当てることとなった（表、参照）。学位は研究課題に応じて、修士（言語学）、修士（文学）、修士（国際学）もしくは修士（学術）を授与することになった。

博士後期課程（博士課程）に関しては、地域文化専攻一専攻、定員一六人（総定員四八人）として出発し、学位は課程博士、論文博士ともに博士（学術）とすることとなった。

研究科名	博士前期課程			博士後期課程		
	専　攻　名	入学定員	総定員	専攻名	入学定員	総定員
地域文化研究科	ヨーロッパ第一専攻	20人	40人	地域文化専攻	16人	48人
	ヨーロッパ第二専攻	20人	40人			
	ヨーロッパ第三専攻	9人	18人			
	アジア第一専攻	20人	40人			
	アジア第二専攻	10人	20人			
	アジア第三専攻	10人	20人			
	日本専攻	25人	50人			
合計		114人	228人	合計	16人	48人

専　攻	コース	
ヨーロッパ第一専攻	言語文化 地域研究	国際交流専修（20人）
ヨーロッパ第二専攻	言語文化 地域研究	
ヨーロッパ第三専攻	言語文化 地域研究	
アジア第一専攻	言語文化 地域研究	
アジア第二専攻	言語文化 地域研究	
アジア第三専攻	言語文化 地域研究	
日本専攻	言語文化 地域研究	

平成4年度　大学院地域文化研究科博士後期課程開講一覧表

	授業科目名	講義題目	単位数	担当者	現職
共通	比較言語論研究I	言語思想研究	4	宮盛	助教授
	比較言語論研究II	言語の比較と日本語	4	千野	教授
	比較言語論研究III		4	西江	
	比較言語文化論研究	ヨーロッパ言語文化の伝統と統一性の問題	4	沓掛	教授
	思想文化論研究I	近代ヨーロッパにおける〈革命〉の観念	4	上村	教授
	思想文化論研究II	中国の伝統思想と近代	4	有田	教授
	文化人類学研究		4	川田	教授
	歴史人類学研究	歴史人類学の課題と方法	4	二宮	教授
	国際関係論研究	冷戦とアジア	4	中嶋	教授
	比較社会論研究I	歴史社会学の方法	4	山之内	教授
	比較社会論研究II		4	坂口	教授
	国際経済論研究	都市化と労働力移動	4	伊豫谷	助教授
ヨーロッパ第一	イギリス言語論演習	英語学研究	2	東(信)	教授
	イギリス言語文化論演習		2	ゴードン	教授
	ドイツ言語論演習	ドイツ語の表現様式と認識様式	2	在間	教授
	ドイツ言語文化論演習	ドイツ文学研究批判	2	谷川	助教授
	ドイツ歴史社会論演習		2	増谷	教授
	ネーデルラント歴史論演習	共和国時代のオランダ社会経済史	2	佐藤(弘)	教授

ヨーロッパ第二	フランス言語論演習Ⅰ	未完了表現と non marque	2	渡瀬	教授
	フランス言語論演習Ⅱ	統辞機能と意味特徴	2	敦賀	助教授
	フランス歴史社会論演習	十八世紀フランスの社会と文化	2	水林	助教授
	イタリア言語文化論演習	初期俗語詩論	2	河島	教授
	イタリア歴史社会論演習	ヨーロッパ「国家理性」史論	2	高下	助教授
	スペイン言語論演習Ⅰ	スペイン語創出文法理論演習	2	原(誠)	教授
	スペイン言語論演習Ⅱ	スペイン語形態統語論	2	寺崎	教授
	スペイン言語文化論演習	スペイン黄金世紀文学研究	2	牛島	教授
	ポルトガル言語論演習	十六世紀ポルトガル語文法理論	2	池上	教授
	ポルトガル言語文化論演習	十九世紀ポルトガルの都市	2	岡村	教授
	ポルトガル歴史社会論演習	ポルトガル近世史研究	2	金七	教授
ヨーロッパ第三	ロシヤ社会論演習	ロシヤ語学と現代言語思想	2	磯谷	教授
	ロシヤ歴史論演習	ワシーリ・グロスマン研究	2	亀山	助教授
	ロシヤ言語文化論演習	ロシヤ精神史	2	渡邊(雅)	教授
	ロシヤ言語論演習	ソビエト経済思想史	2	岡田(進)	教授
アメリカ・オセアニア	アメリカ言語論演習		2	高橋(作)	教授
	アメリカ歴史社会論演習	アメリカ思想史の社会的条件	2	小浪	教授
	アメリカ社会論演習	アメリカ外交政策決定過程研究	2	宇佐美	教授
	ラテンアメリカ歴史社会論演習	歴史における移動と空間	2	清水(透)	教授
	オセアニア言語文化論演習	メラネシア諸語の記述及び汎証法的分析	2	新谷	助教授

	オセアニア社会論演習	オセアニア社会論	2	中山	助教授
アフリカ	アフリカ言語論演習		2	加賀谷	助教授
	アフリカ言語文化論演習	アフリカ諸国の国語化問題	2	梶	助教授
	アフリカ歴史社会論演習	アフリカ都市の民族誌	2	日野	教授
アジア第一	中国言語論演習Ⅰ	漢字と漢語	2	興水	教授
	中国言語論演習Ⅱ	早期白話資料講読	2	金丸	教授
	中国言語文化論演習	礼記子本疏義の研究	2	高橋(均)	教授
	中国歴史論演習	中国史研究	2	佐藤(公)	助教授
	中国社会論演習	清代華南における「漢化」関係資料の解読	2	ダニエルス	助教授
	朝鮮言語論演習	朝鮮語アスペクト論	2	菅野	教授
	朝鮮言語文化論演習	朝鮮近代文学の理論研究	2	三枝	教授
	モンゴル言語文化論演習	モンゴル英雄叙事詩論	2	蓮見	教授
アジア第二	フィリピン歴史社会論演習	フィリピン社会史に関するタガログ語・スペイン語古文書講読演習	2	池端	教授
	タイ言語文化論演習	タイ語学演習A	2	三谷	教授
	カンボジア言語文化論演習	カンボジア語文法論演習	2	坂本	教授
	インドネシア歴史社会論演習	「ジャワ文化」の構造と形成過程	2	宮崎	助教授
	ビルマ歴史社会論演習	ビルマの伝統国家論	2	奥平	教授
アジア第三	ヒンディー言語文化論演習	歴史小説における共通ヒンディー語と諸方言	2	田中(敏)	教授
	ウルドゥー言語文化論演習	ウルドゥー動乱文学の分析	2	鈴木(斌)	教授
	インド歴史社会論演習	近代インド思想史論―西部インドの場合	2	内藤	助教授

アジア第三	ネパール歴史社会論演習	ネパール民族誌・地方史講読	2	石井(溥)	教授
	イラン言語文化論演習	現代ペルシア語の言語文化学的研究	2	上岡	教授
	イラン歴史社会論演習	映像資料による中東現地学	2	清水(宏)	教授
	アラビア言語論演習		2	中野	教授
	アラビア言語文化論演習	現代アラブ小説論	2	奴田原	教授
	アラブ歴史論演習	十六・十七世紀の社会・経済変化をめぐる諸問題―とくにアジア貿易を中心とする―	2	家島	教授
	トルコ歴史社会論演習	オスマン・トルコ語史料の講読	2	永田	教授
日本	日本言語論演習	社会方言学	2	井上(史)	教授
	日本言語文化論演習	大正期の文学	2	国松	教授
	日本歴史論演習	近代日本研究の諸問題	2	成田	
	日本社会論演習	近代日本の宗教と社会	2	島薗	

博士後期課程と博士前期課程国際交流専修コースの入学試験（いずれも論述試験と口述試験〈面接〉）は特例として新年度の四月に実施され、博士後期課程に関しては二一人の応募者に対して一九人（内九人は留学生）が合格し、国際交流専修コースに関しては一九人の志願者に対して五人が合格した（同コースは、一九九五（平成七）年度以降は定員を充足している）。地域文化研究科発足当時の教官スタッフとカリキュラムは次のとおりである。

ところで、地域文化研究科の運営に関しては、当然、学内の諸規定が定められたが、本研究科が修士講座を基礎とした学部およびA・A研究所の教官による兼担の大学院であったために、研究科長は学長が兼任するところとなり、大学院の重要議題を協議する機関としては大学院協議会が改めて設置された。同時に、前期課程には言語文化コース

と地域研究コースの二つの委員会、後期課程には言語文化コースと地域研究コースおよびA・A研究所大学院の三つの委員会が設けられ、それぞれ委員長が選出された。そのうえで後期課程委員長が三委員会の委員長のなかから選出されて、その後に前期課程委員長が選ばれるという複雑な運営形態となった。そのために審議の重複など煩瑣な点も多いが、それは取りも直さず、本学の積年の学内的な葛藤の反映であるといえなくもない。発足当時の各委員長は次のように決まった。

研究科長……原　卓也
後期課程委員長……千野榮一　　前期課程委員長……上村忠男
同言語文化コース委員長……千野榮一　　同言語文化コース委員長……千野榮一
同地域研究コース委員長……中嶋嶺雄　　同地域研究コース委員長……上村忠男
同A・A研究所委員長……永田雄三

こうして発足後の一九九二（平成四）年九月三十日には、佐藤禎一文部省高等教育局長ら関係者を迎えて、博士課程設置祝賀会が本学大会議室で開催されている。

様々な問題を含みながらも、本学に博士課程がついに誕生し、博士学位を授与できるようになったのであるが、早くも一九九五（平成七）年三月には第一号の博士（学術）学位が、在学期間短縮を申請したフィリピンの留学生リカルド・ホセ（Ricardo T. Jose）に授与された。同の博士論文（審査委員会主査＝池端雪浦教授）は「日本占領下フィリピンにおける食糧管理統制制度―コメ不足とその対策を中心にして」と題するものであり、いかにも本学の博士

学位（学術）授与者

【課程博士】

学位授与年度	氏名	性別	学位論文題目
平成6年度	リカルド T ホセ Ricard T Jose	男	Food Administration in the Philippines during the Japanese Occupation, 1942-1945 : Focusing on the Rice Shortage and Countermeasures
平成7年度	フカマチ ヒデオ 深町　英夫	男	中国国民党形成史の研究 －〈孫文革命〉の展開と党国体制の成立－
	スズキ キクコ 鈴木　貴久子	女	マムルーク朝時代の料理書『日常食物誌』を中心とするアラブ・イスラーム世界の食生活研究
平成8年度	チロウ ケンカ 張　建華	女	日中両国における取り立て表現の対照研究 －「だけ」「ばかり」「しか」と“只”“淨”を中心に－
平成9年度	オオスガ フミカズ 大須賀　史和	男	ベルジャーエフの思想－哲学の形成と問題群
	ルチラ パリハワダナ Ruchira Palihawadana	女	日本語の否定文のテンス・アスペクト
	ヒグラシ ミナコ 日暮　美奈子	女	ヴィルヘルム期ドイツにおける婦女売買 －婦女売買撲滅運動ドイツ国内委員会の分析を中心に－
	ヨシエ サトコ 吉枝　聡子	女	現代ペルシア語の敬語行動に関する社会言語学的研究－テヘランの場合－
平成10年度	ソイスダー ナラノーン Soysuda Naranong	女	日本語の終助詞「よ」・「ね」・「よね」について－日本語教育の視点から－
	ハヤシ 林　みどり	女	接触と領有－アルゼンチンの近代化過程における言説の政治－
	カキザキ イチロウ 柿崎　一郎	男	タイの鉄道とバンコク中心経済圏の形成 1897～1941年
	サカエダニ ハルコ 榮谷　温子	女	アラビア語における限定・非限定の意味と機能

【論文博士】

学位授与年度	氏名	性別	学位論文題目
平成9年度	チロウ ジュンブン 趙　順文	男	結合価文法論考
平成10年度	イマザワ コウジ 今澤　浩二	男	ケマルパシャザーデ・ターリヒ第4部 －研究と校訂－

第一号に相応しい学位授与であったといえよう。以後、一九九八（平成十）年度までの博士学位授与者は次のとおりである。

七　大学院重点化と大学院改革

1　求められる大学院改革

本学の地域文化研究科がスタートする前後の時期は、わが国の大学院全体が大きな転換を迎える時期に当たっていた。戦後の大学院制度が学問研究の高度化・多様化の流れのなかで転換を迫られる一方、大学院制度の普及に従って、大学院が高等教育全体のなかでより重要な位置を占めつつあったからでもある。文部省の大学審議会大学院部会は、一九八八（昭和六十三）年十二月十九日に「大学院制度の弾力化等について」答申し、国立大学協会はそれに先立つ一九八六（昭和六十一）年六月に大学院問題特別委員会が「国立大学大学院の現状と今後の在り方」と題する報告書をまとめている。これらの論議を経て、文部省は一九八九（平成元）年九月一日に「大学院設置基準の一部を改正する省令の施行等について」の通知を国公私立大学に通達した。その内容は、修士課程に関して成績の優れた者には修業年限を二年未満で可としたこと、博士課程に関しては研究者養成のみならず、高度に専門的な業務に従事する者にその設置目的を変更したことである。

このような動きは、わが国の大学院制度を、それが普及し充実している欧米諸国に近づけようとしたものであったといってもよいであろう。とくに人文・社会系の大学院については、博士学位の授与を円滑に進めることによって、